

2013年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2013年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2013年度秋季総合分科会の際の9月25日（水）15時より、愛媛大学にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第18巻3号の会報151でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

特別賞

長尾健太郎（名大多元数理助教）

業績の題目：Donaldson-Thomas 理論と冪代数

長尾健太郎氏は、ご病気のため2013年10月22日に31歳で亡くなりました。氏は、幾何学的表現論において顕著な研究成果を上げ始めた前途有望な数学者でした。氏の早すぎる死は悲しい出来事であり、数学界にとって大きな損失であると感じられます。

長尾健太郎氏について簡単にご紹介いたします。1982年生まれ、国際数学オリンピックにおいて1997年に銀メダル、1998年・1999年・2000年に金メダルを受賞されました。東京大学理学部卒業後、京都大学大学院理学研究科にて表現論と幾何学を専攻、2009年3月に博士号を取得されました。博士号取得後、半年間オックスフォード大学Joyce氏のもとにて在外研究、2010年春に名古屋大学大学院多元数理科学研究科に助教として着任されました。2013年秋にDonaldson-Thomas理論と冪代数に関して、日本数学会建部賢弘賞特別賞を受賞されたのが氏のご逝去一ヶ月前のことです。建部賢弘賞授賞式の後、“最近健康上の理由でなかなか思うように数学ができないのですが、せっかく賞を頂いたので頑張らねばと思っています”というお返事が日本数学会宛にあり、困難な状況でもいつも前向きだった氏の人柄が忍ばれます。心から哀悼の意を表します。

ブノワ・コリンズ（東北大原子分子材料科学高等研究機構ジュニアPI）

業績の題目：自由確率論とその応用

自由確率論とランダム行列の応用について興味を持っています。その中でも、量子情報、表現論、量子群などを研究しています。今まで関係のなかった分野にリンクを見つけたり、たくさんの方との共同研究することも、積極的に続けていきたいことです。

安田健彦（阪大理准教授）

業績の題目：モチーフ積分と特異点に関する研究

ここ数年、McKay対応を正標数や混標数へ一般化する研究していますが、特異点と数論が

結びつく様が興味深いです。やるべきことがたくさん残っていますので、今後しばらくは、この研究を発展・深化させることに注力しようと思っています。

奨励賞

小関健太（国立情報学研究所，JST，ERATO，河原林巨大グラフプロジェクト特任助教）
業績の題目：グラフのハミルトン性に関する研究

グラフ理論を専門にしており，特にハミルトン性とその周辺に興味があります。すべてのパーツがぴったりと当てはまる証明が魅力的でこの研究をしてきました。お世話になった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

糟谷久矢（東工大理工助教）
業績の題目：可解多様体のトポロジーと幾何

高度に積み上げられた体系から離れ，素朴なテーマを手探りの計算によって突き進んでいくことで，新しい流れを生み出すことが出来たと思います。今後は超越的な理論を構築したいと思っています。

金子元（日大理工学振 PD）
業績の題目：代数的数のディオファントス近似と Emile Borel の予想

数の近似理論を，一様分布論という観点から研究しております。今後も更なる研究の発展に努力を重ねて参りたいと思います。今までご指導いただいた先生方のお言葉が励みとなりました事，この場をお借りして御礼申し上げます。

田中公（京大理博士2年生）
業績の題目：正標数における極小モデル理論

代数多様体を分類する為の理論である極小モデル理論を正標数の世界で考えています。標数ゼロの場合に比べて知られていない事もたくさんありますが，少しでもその発展に寄与できたらと思っています。

谷本溶（東大数理学振 SPD）
業績の題目：作用素環的方法による2次元場の量子論の研究

作用素環を使って場の量子論を研究しています。学振の DC1, DC2 ともに不採用になりましたが，イタリアとドイツは奨学金をくれたので留学しました。修士の時に結果が出ない人にもチャンスが与えられてほしいと思います。

浜向直（東大数理博士3年生）

業績の題目：ハミルトン・ヤコビ方程式の数学解析と結晶成長への応用

非線形偏微分方程式を、粘性解理論に基づき研究しています。諸科学に現れるハミルトン・ヤコビ方程式等に対する数学理論の整備が、学問間の連携に繋がることを期待しています。お世話になった皆様に深く感謝致します。

* * *

2013年度日本数学会賞建部賢弘賞奨励賞受賞者の一人である浜向直会員が、第4回（平成25年度）日本学術振興会育志賞を受賞されました。対象となった研究課題は「結晶成長現象とハミルトン・ヤコビ方程式」（Crystal Growth Phenomena and Hamilton-Jacobi Equations）です。第1回の佐々田慎子会員、第2回の権業善範会員に続き、日本数学会からの推薦者が受賞するという快挙となりました。心からお慶び申し上げます。

2010年度創設になる日本学術振興会育志賞は、大学院博士課程在学中の院生に授与される賞です（詳細については <http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/> を御覧ください）。日本数学会は毎年、育志賞の候補を推薦していますが、その方法は、『数学通信』本号会報152第6項の注6）の通り、建部賢弘賞受賞者であってしかも大学院博士課程学生であるものから1名を選定し、日本数学会賞受賞候補者選考委員会の議を経て推薦するというものです。次回の日本数学会賞建部賢弘賞への推薦期限は2014年5月31日（必着）ですが、日本学術振興会育志賞への推薦時期が早まっており、育志賞の候補となるものの建部賢弘賞への推薦の期限は2014年4月18日（金）とします。育志賞にふさわしい優秀な大学院生をご存知でしたら、この期限内に建部賢弘賞候補としてご推薦いただくよう、お願い申し上げます。（理事長 記）